

## 1. 育成のねらい

近年、地球温暖化の影響などにより一部の品種で肥大性の低下や球根腐敗病の増加が問題となっている。また、花壇植え用の一重咲き白系品種の生産が少なくなっており、販売戦略上、収量性の高い白系の新品種が求められている。そこで、球根腐敗病に抵抗性を有する収量性の高い一重咲きの白系品種を育成する。

## 2. 育成経過

平成7年：交配



平成12年：初開花、初選抜



平成23～28年：系統特性検定試験  
系統名付与「砺波育成142号」



平成29～令和元年：特性検定試験



令和2年：品種登録出願

♀ Rose Beauty × ♂ Mrs. John.T. Scepers



153粒



2系統



「砺波育成142号」



「春うさぎ」



## 3. 品種の特徴

- ・白色の一重咲き(晩生種)
- ・球根生産が極めて良い、球根腐敗病に強い

(露地開花特性)

- ・露地開花期は4月下旬で、花の観賞期間は16日程度
- ・露地での鑑賞期間が長く、花壇植えに適している

(球根収量性)

- ・球根収穫期は6月下旬
- 主球の肥大は「大」、分球性は「中」、
- 収穫量は「多」、ほ場裂皮の発生率5%未満

(耐病性)

- ・土壌伝染性病害抵抗性は、
- 微斑モザイク病「中」、条斑病「やや強い」、
- 球根腐敗病「強」

(促成適応性)

- ・2～3月の出荷が可能



## 4. 販売までの経路

令和2年から県内生産者のほ場で原種増殖が開始され、令和4年に県球根組合を通じて生産者へ原種供給、令和5年収穫の球根より販売を開始